

りんどう
LC通信
かわら版

平成15年
7月25日
通巻第2号

PR委員会発行

華やかな今期 第1回目の例会開催

梅雨の真っ只中の7月11日、今期
第二回の例会は、会場を新たに替え
てニュープラザホテルで緊張のうちに
も華やかな雰囲気の中に開催され
た。今回の会場は、シックな感じのす
る落ち着いた例会会場である。

誰しもそうである様ように、第一
回のスタートとは緊張するものであ
る。新五役の面々もそれが初々しく
て、好感が持てる。五人の新しい役
員の方々には8月に発行予定の会
報誌で、これからの一年間の活動を
語ってもらうことにする。

川嶋会長の挨拶の中にあつた、今
期から華興獅子会との交流は、今後
隔年交流にするということであつた。
毎年、訪問を楽しみにしてあつた華
興獅子会、りんどうの会員諸兄は、
さびしい思いをされるかもしれない
が、これも時代変革の現れだとして理
解いただかなければならない。

ま、年に二回懐かしい顔に会えるの
は同じことなのだから、何の不足も
ない。

今期の第一目標は会員増強と事

業資金の獲
得であろう。L
原の「りんどう」
の財務に就いて
の熱心さには
敬服すると同
時に、我々も
人ごととな
らず、この問
題には真剣
に取り組み
なければな

らない。このことは「犬声独語」の中
に具体的に述べてあるとおりである。
我が「りんどう」のスゴイところは、
物ごとに取り組む前はグズグズ言
うが、やりだしたら何でもパーフェクト
に成し遂げるところである。それは
「火事場の馬鹿力」ぐらいではない。
第一回のドネーションの金額は40,
000円も集まった。「どうしてだ
ろうー」などと言わずに、ビッグドネ
ーション大歓迎である。



〈犬声独語〉

長かった梅雨もやっと終息に
近づいた。去年より10日も長い
梅雨であつた。

それにしても今年の梅雨はひ
どい災害をもたらした。特に大
宰府・水俣での豪雨の被害は、目
を覆うばかりであつた。若い頃は
「矢でも鉄砲でも降ってきやがれ」
などと生意気を言っていたが、こ
の歳になって「地震・雷・火事・オ
ヤジ」の恐ろしさを識る様になつ
た。現代はオヤジに代わって「雨」
のほうが悪い。大宰府では、五ヶ
月分の雨が一日で降つたとテレビ
の天気予報で言っていた。我ら団
塊の世代の人間は昭和28年の久
留米の大洪水を思い出す。旭屋
デパート(古いなあゝこんな呼び
方をすると)が二階まで水に浸
かつたんだから...

冒頭からゼニの話で恐縮だが、
まず会員を5人は増員して、簡
易保険加入を全員が全員加入
していただくと、1人1口1万
円×60名は年間720万円の6
%は43万円のクラブ収入となる。
今までの収入と43万円をプラス
すると軽く200万円を超える
資金獲得出来ることになる。
このことは出来ない「はなし」で
はない。

誰のためのではなく、我々「り
んどうLC」のために是非達成
させなければならぬ。

簡易保険加入者 60%に達する

ただき
ました。こ
のことはク
ラブの6割の会員が
加入していることにな
ります。

簡易保険加入者の方々は6月、7月と満期になる方が多かったが、我がクラブの財政事情をご理解いただき、ほとんどの方々が継続していただきました。

一杯やっただつても残りの方に加入いたたくと、事業資金は潤沢それはアクティビティは充分な活動をやるということになるのですが、「火事場の馬鹿力」を發揮できるか興味津々。

又、新規に11名の方にご加入して

今月の愛蔵写真館

「あじさい・滝・湿原」の撮影会

梅雨に入った6月15日曜日、この日1日は梅雨と思われない快晴に恵まれ、絶好の撮影日和であった。早朝の山本町千光寺の「あじさい」撮影、陽の照りだした八時過ぎには多くのカメラマンの熱写風景が目に入る。車で佐賀見帰りの滝へ。お天気

がいいのか人の多いこと。押すな押すなである。陽は照りつけ汗をかく程の外気。滝の音と水しぶきが心地よい。こんなに人があつた写真撮るのには少々邪魔であった。車は何度も道に迷いながら檀原湿原へ、やっと写真らしい写真を撮ることができた。

三時過ぎにやっと昼飯にありついた。名物の「三瀬鶏」を野外でワイルドに食す。鶏飯もうまかつた。少々疲れただけ楽しい梅雨空の間隙を縫った初夏の晴天の一日であった。それにしても、写真愛好会の皆さんの写真の上手いこと。「滝とアベック」は川嶋会長作品。「あじさい」は上城戸の傑作。みんなそれぞれの趣味を生かして「忙中閑あり」と日々楽しんである。



「滝とアベック」L.川嶋



「あじさい」L.城戸